

令和4年度 海津明誠高等学校学校運営協議会 会議実施報告書

- 1 会議名 海津明誠高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年1月18日(水) 13:00～16:15
- 3 開催場所 海津明誠高等学校会議室
開催にあたり、委員による学習成果発表会見学を実施した。
- 4 参加者
- | | | |
|-----|-------|----------------------|
| 会長 | 森 元則 | 海津市商工会副会長(欠席) |
| 副会長 | 杉野 照美 | 岐阜県公立幼稚園等新規採用教員研修指導員 |
| 委員 | 水谷 初代 | 更生保護女性会高須地区支部長 |
| | 宮脇 和義 | J Aにしみの海津区域統括グループ長 |
| | 金澤 恵子 | 同窓会 |
| | 安藤 敦 | P T A会長(欠席) |
| | 渡辺 博邦 | 株式会社渡辺組 代表取締役 |
| | 伊藤 久 | サンリバーはつらつ事務長 |
| 学校側 | 中村 豊 | 校長 |
| | 滝 一男 | 教頭 |
| | 曾根 章好 | 教頭 |
| | 鈴木 尚己 | 事務長 |
| | 山田 富己 | 教務主任 |
| | 佐藤 圭司 | 進路指導主事 |
| | 小田切 淳 | 生徒指導主事 |
| | 河合 豊美 | 特別活動部長 |
| | 水谷 浩也 | 健康教育部長 |
| | 中島 匡弘 | 商業科主任 |
| | 酒井 美也 | 生活産業科主任 |

5 会議の概要

(1) 学校長挨拶

(2) 学習成果発表会見学

- ・体育館及びオンラインで各教室に配信されている学習成果発表会を視聴
- ・学習成果発表会展示物の見学

(3) 令和4年度の教育活動の取組の反省と令和5年度に向けての取組について

- ・「学校経営」「進路指導」「生徒指導」「ふるさと教育」について各担当職員から資料に基づいて説明

(4) 委員からの主な意見・要望等

- ・各委員から、学習成果発表会について及び「令和4年度の教育活動の取組の反省と令和5年度に向けての取組」について、意見・要望等を得た。

意見1：コロナ禍の苦しい中だが立派な発表だった。廊下に掲示してある成果物も分かりやすかった。新聞等からも外部連携活動をコロナ禍でも頑張っていると思っていた。

進路指導においては、生徒と先生と保護者が向き合って丁寧に取り組み、良い方向に向かってほしい。

意見2：発表会は素晴らしかった。生徒の個性もあるが、もう少し堂々と発表できたらよかった。

コロナ禍で地域と関わる機会が少ないので、ふるさと教育も大変である。

意見3：良い発表であった。プレゼンテーションの経験は貴重である。原稿を棒読みしているので、練習をして言いたいことがより伝わる話術を身につけさせるとよい。

教員には自信を持ってもらいたい。本校はアットホームで生徒1人1人に目が行き届く学校である。特に進学の方に更に力を入れて手厚く指導してほしい。

意見4：本校の生徒は地域性なのか小さい頃から穏やかでおとなしい気質だが、普通に協力して発表できており、そのこと自体が良かった。

進路指導では個別に指導がなされており、これがより良い結果につながるとよい。また、無事に卒業できるように生徒の指導をしている。途中で進路変更するにしても、生徒と保護者が共に納得できるように相談にのってほしい。

意見5：発表会は生徒の話し方、発表内容ともに良く、聞き取りやすいプレゼンテーションをしていた。

年度の後半に遅刻が増えるのは3年生の進路決定後の気の緩みからではないか。

意見6：高校段階で今回の発表会のようなプレゼンテーションの経験ができることは、社会に出てからも必要であり、良いきっかけとなるので是非続けてほしい。

質問1：高校3年生で成人となるが、生徒には自覚があるのか。教育方針において変化した点はあるか。

⇒社会的には18歳で成人は早いという認識があると思われる。全国的にも成人の日が「20歳を祝う会」となっている。法律が変わってすぐには社会は変わらない。本校のように50%が就職する高校にとっては、社会人としての自覚を持つように言い続けることは意味がある。また、学習指導要領の中で18歳成人を見据えた消費者教育が加わっており、授業での取り組みを進めている。

質問2：本校の制服の自由化はどの程度進んでいるか。女子でスラックスをはいている生徒を見かけた。

⇒全く進んでいない。進めるためには、教員、生徒、保護者の考えを聞く必要があり、まだ時間はかかる。女子のスラックスは本校の制服として認められている。

(5) 学校長挨拶

6 会議のまとめ

今後の新型コロナウイルス感染症への対応の動向を踏まえて、今回協議した「令和4年度の教育活動の取組の反省と令和5年度に向けての取組」に基づいて来年度の学校運営を進めていく。